学 年	教科等	単元名	日時
第4学年	社会科	水はどこから	令和6年7月12日(金)

#### 1 本時の目標

学習したこと等を基に、宮崎市において飲料水を安全で安定的に供給するために必要な取組を選択・判断し、 表現することができる。

#### 2 指導過程

#### 学習活動及び学習内容 (★は評価にかかわるもの)

- 1 本時の学習について話し合う。
  - 前時までの復習
  - 話合いのテーマの確認

宮崎市で安全な水を使い続けるために必要なことは、節水なのだろうか。

- 2 本時の学習について見通しをもつ。
  - 学習の流れ
    - グループでの話合い
    - ・ 全体での共有
    - ・ ふりかえり
- 3 テーマについてグループで話し合う。(★)
  - 自分の考えとその理由

# 節水が必要と考える理由(例)

・ 世界では、水が不足している国があり、節水した 方がよいと本に書いてあったから。

#### 節水以外の取組が必要と考える理由(例)

- ・ 節水すると水道局の収入が減ってしまうから、節水 はしない方がよい。川が汚れていると薬品代が増える から、川の水をきれいにする方がよいと思う。 等
- 考えを深める話合い

#### 話合いによって考えが深まっている発言の例

- ・ 水をたくさん使うと、つくる量を増やさなくてはいけなくなるから節水は必要だ。でも、汚れた水を流すと、下水処理が大変だから、その対策も必要ではないかな。
- 4 グループで話し合った内容を全体で共有する。
  - グループで話し合ったこと
  - 共通していること
    - ・ 水を大切にすること
- 5 本時の学習をふりかえる。
  - 考えの再構成
  - 考えや理由の変容とその要因
  - ・ 節水は必要ないと思っていたが、○○さんの意見 に納得して、考えが変わった。
  - ふりかえりの共有

### 「自律的に学ぶ」ための手立て

- 宮崎市と都城市の水道事業について確認することで、水源が異なることや、都城市の水源は地下水であるため、節水の必要があるということを想起することができるようにする。
- テーマについての今の考え(節水か節水以外の取組か)を全体で共有することで、仲間の考えや理由を聞いてみたいという思いをもつことができるようにする。
- 学習の流れや活動時間を伝えることで、全員が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
- 既習事項を掲示したり、授業で使用した資料を学習支援アプリに入れたりすることで、資料等を根拠として示しながら話し合うことができるようにする。
- 1つの考えに集約したグループには、考えの異なる人に対して、どのように説得するかを問うことで、根拠をさらに明確にしようという思いをもつことができるようにする。
- 考えが対立しているグループには、みんなが納得できるような考えはないかを問うことで、折衷案を生み出そうという思いをもつことができるようにする。
- 話合いの途中で、全体に対し、取組について具体 的にどのような活動ができるかを問うことで、具体 的な活動について考えたり、その活動は実現可能か を話し合ったりすることができるようにする。
- グループで話し合った内容を共有する場を設定 することで、様々な仲間の発言や資料を確認し、ふ りかえりの際に生かすことができるようにする。
- 取組に共通していることは何かを問うことで、水 を大切にすることであると気付き、その思いを高め ることができるようにする。
- 話合いの前後で考えや理由が変容したかを問う ことで、自分の考えを再構成することができるよう にする。
- 考えや理由の変容とその要因についてふりかえり、仲間と共有する場を設定することで、仲間の発言や資料のよさに気付いたり、自分の発言や資料を見つめ直したりすることができるようにする。

# 3 本時の評価規準

学習したことや調べた資料、生活経験等を基に、宮崎市において飲料水を安全で安定的に供給するために必要な取組として、「節水」、「節水以外の取組」のどちらかを選択・判断し、根拠を示しながら自分の考えを伝えたり、話し合ったりしている。 (思考・判断・表現)【記述分析・発言分析】

#### 4 板書 等



# 5 指導講評

### 宮崎大学 藤本 将人 准教授

- 社会科は、社会化と対抗社会化の2つの軸で授業をつくるのが基本である。社会化とは、今ある社会に 子どもをなじませようとする教育のことであり、対抗社会化とは、今ある社会に対して、「本当に今まで にやり方でよいのか」、「新たな考えを生み出す必要があるのではないか」と考えさせる教育のことであ る。本時は対抗社会化を軸においた授業であった。
- 社会科は、ある1つの事象を、複数の視点で切っていくところに特徴がある。本時は、経済や消費者、 節水という複数の視点で子どもが話し合うことができるテーマになっていたと思う。しかし、葛藤させる までの過程については、発達の段階に合わせて工夫していく必要がある。
- 新しい学習指導要領において、重要視されるのは、省察することである。省察とは、同じことを繰り返し考えることをとおして、資質・能力をより確かなものにしていくことである。同じことを考えるなかで、1周するごとに考えが高まるような螺旋構造になることが望ましい。今日の授業は、子どもの学習プリントの記述の変容を基に、論証していくことができるであろう。

# 宮崎県教育庁 義務教育課 島崎 博英 指導主事

- 社会科の本質は、社会認識形成をとおして公民的資質を養うことである。これを、研究の中心に据えているとともに、社会に見られる問題を自分事として捉えさせることについては、社会科において重要である。したがって、現在のニーズに応えた研究になっていると思う。
- 本時は、考えを深めるための話合い活動が中心となっていた。しかし、話合い活動の途中で教師が具体 的な取組という視点を与えたが、それが効果的であったのか、他に有効な手立てはなかったのかを考える 必要がある。
- 話合い活動において、子どもたちのなかで根拠が整理されていない、未分化の状態にあったのではないか。子どもに、根拠とは何かを考えさせる必要がある。また、発達の段階に応じて、子どもたちが発言する際の根拠をどのように示すのかということについて、今後さらに研究を進めていく必要がある。

# 6 考察

- 宮崎市と都城市の水道事業や課題の違いを比較できる資料を提示したことで、「宮崎市における水の安定供給のために必要な取組」について、節水かそれ以外かと迷う子どもの姿が見られた。さらに、節水かそれ以外の取組かを話し合う時間を設定したことで、子どもが自ら必要な資料を集める姿も見られた。しかし、自分の考えと資料を結び付け、建設的な話合いができる子どもは少なかった。また、考えを深めさせるための教師の手立てが有効ではなかった。今後は、子どもが効果的に根拠を示したり話し合ったりするための方法や、子どもの考えを深めさせるための教師の手立てについて追究していきたい。
- 学習プリントの形式を工夫したことで、子どもが話合いの前後で考えや理由が変容したことを自覚する 姿が見られた。しかし、学習プリントの書き方についての指導が不十分であったため、変容の要因を適切 に書けない子どもがいた。今後は、変容の要因を自覚することができるような学習プリントの形式や、ふ りかえりの共有の仕方について、追究していきたい。